



變の有りありこれらに瞻前忽後の謬ともし
ある一誠といへ人の短命あるを以て孔子の撰集
の虚言自在あるに返さくしあけさくぬい
れ子の残念とおありて一その虚言の代文と
或は管仲といはれし家残（子）於前而無
憂色是知權命也事所射君通於憂
也一その虚言の時にあはれく
權と變との別ちりぬれとも稱鑑といはれ
しとや孔子と偏居の親に仕えたる誠と
二程の比しりといひしけれ一貫抄に知者
可與との二章とありて子路とやるる語文
あれぬ與權の二子い道の權謀ありといひ

とくくの謀計ありてその論語の正權
けり子原道の虚言あるらんやれとと能
る媒とて儒術を在の名師といはれし虚
言と我家の一大よりて道と一字の信と
言はれしを律し改むと論の大綱とて
言はれし虚言の變あるよりとさるる言に能
せられりといはれしとさるる一
勸懲先後 師説は勸善懲惡といふ師家の
の教誡といはれしと教と誡といふ二事あれ
い勸と懲といふ二用ありとあるは師家の
善惡の次とにけりて極末といふて人と
とくく地獄といひて人といふて師家

る井の中

と

善の西の情とこげて丹有る返けのこし
さしあ子路に進むいよさきこらさく教誡の
詞の書見四討とある一とあるに先後の詞と
こらさきさき善とさきもれた教化とさき
醫者の死削し補浮の死とさきもつとさき危
うらさき益氣湯とありさきんさき

孔子、牛刀 先後おの大略し儒行しれ糸の和しあ
舜の弦とと鑑あれとも子游と武城の一篇し
大小の重とこさきさき耳聞のさきさきと
読しつと務められあれし孔子んさきし
しとたのしと史記しけ段の結文あり孔子
以厚子游羽於文學子とさきと今の朱喜集

註をたれつのためし此結文も及んし例し我好
の塩梅とほげし夫子深喜のさきも子游の正
對しともさきゆてと孔子とあやさきと合し
け趣と茶話禪も禪家の高量といさき
さきし趙州の向答し僧向一物不将来時如何
州曰放下着僧曰已是一物不将来放下這什
麼州曰恁麼則擔取去はてとけほし子游
さきとさきとさきとさきと所近とさきとさき
はれし一たの節とちりんとと詞の重とさきて
人よの甲とんさきと面くの自知しとさきと
百人の険崖しとと放さるさきとけあし孔子
も趙州も合しとさきとさきとさきとさきと

の善也

と

實とちし一のり謀やまるとして一層とちしあ
むら一層とちし一實とちしとて一教化の家の
大りありとやむら師牙の初徴し君父の
訓諱しかりとて一徳の家の名とて一まよとて
むら一師家の温勸へ一義とまると一引せ
母必母固 一貫おの四絶の論し傳つよは成せし
言そのくしあ末代の學者衆の異端とせしん
しる在りの言言としや一孝の家の言言とせし
ことせまうしれ子の言言と一徳の家の言言とせし
とて一我れの言言と一孝の言言とせし
とて一絶の言言と一孝の言言とせし
固とて一孝の言言と一徳の言言とせし

しよのちあら地ありとて一孝の言言とせし
大り仁美れああら一孝の言言とせし
あれたもああら一孝の言言とせし
と一孝の言言と一徳の言言とせし
為徳疾固也としれ一孝の言言とせし
下仲尼不為己甚也言不必修行不
果推義所在ありとて一孝の言言とせし
時のよめ一孝の言言と一徳の言言とせし
変通無方とて一孝の言言と一徳の言言とせし
文ちらに有方の言言と一孝の言言とせし
聖人とはとて一孝の言言と一徳の言言とせし
一孝の言言と一徳の言言とせし

孝の言言と

の徳を賤しうる家語の要通了とあげてかき
かてく論語と虚言の鑑をんをれりも陽貨
の一篇と論語一部の曲節よりて或を帰豚と
もくしあをりて將仕とて時宜の孫言あり或は
牛刀と鮑丘の二章へ詠笑の諱の注をりて
子游より礼采の費用とて子路より又曾夏の和
説とちとせり或は玉帛の捨詞より孔子の喪喪
とありてく或は朱紫の捨詞と論語の以雅
と移りて或は無言の釣説より子貢
の辨入とありて或は楚丘の作病とありて
孺悲の虚言とありて或は食糧衣錦の
記居り孔子の一代の幾言ありて幸我はれ

と世智辨とありてのくを序の書も并に
の各も例し懲惡の適當ありてやこれに
七十二才子と七十二色の勸懲とありて
或は博奕の一章も例のよ捨詞もありて
宰予の懲惡の注もあれんを序のありて
入りてや或は女子と四十一の二章へけい一篇
の結文あれん彼より要の内記よりてあき
けり後章へ棄符の嘆息ありん
あれん論語の二二篇と大むれこれの要通
よりて何より意必固我ちんやその諸書の
也又より或は景伯の虚言と注よりて三王
為夷徳可欺而不可復とて孔子貢より

の徳を賤し

かき

こころから儒仲の設くる内訖と例のたよりである
也とあるに虚妄の虚妄とあるは全く儒仲
の内訖にもあつたけり能諧の証とある一
はくとも意と虚妄に言とあるは名利の用
とある虚妄に虚とあるは名利の用である
けりといふと天の支配してはよふ付はたす
州あり山崎の先老も一貫抄の大綱に孔子の
虚妄論ありて「もおのたより」ありけり
この論の趣も孔子と孟子と儒家の之祖として
孔子の道と孟子にひびきありて孟子の論議の
再記ありて「これ」虚妄の証の似而非
ありといふは第一の虚妄より孟子の二の章上の篇

孔子も周公も天子あつたは「天下
とあるは孔子の言とあるは孔子の虚とある
といふは天の道なり」とあるは「天の道
一氣の動くあり物に虚妄の二用ありて天
と虚とひびく地と虚とさするは人や人間の
るにありて善と悪とをさするは「これ
これと悪人のさするは「これ」
とあるは「善も善も悪も悪も」
此こと虚妄の言とありて「五倫の差
ふありて父子とにありて「君臣の
美とありて忠とありて「虚妄の言とある

乃其の中

孟子の自詔を違ふるや孔子の仁義とけり人として
天下の君もたれとある。所ある万民も皆其の
是非とあつて天下と一政とあつて君の積柄
いあつて天下と一法とあつて君の行儀といふ
と一々天下の次才として木鉄の喩といふや
周公とて一虚一御の言ありて魯の二国一八百
の言とて一々一御の成王と天下の言とあつて
一々の言とあつて一々の言とあつて一々の言
ありて一々の言とあつて一々の言とあつて
不捨遺之六年而百姓正矣何但魯國而已哉雖天下
可乎と定公よりけり名のいふと減して天下せきもの

一々の言とあつて一々の言とあつて一々の言
とあつて一々の言とあつて一々の言とあつて
富きとほつて一々の言とあつて一々の言とあつて
耳とて一々の言とあつて一々の言とあつて
おとつて一々の言とあつて一々の言とあつて
て七十余年とて一々の言とあつて一々の言とあつて
とて一々の言とあつて一々の言とあつて一々の言
の敬とて一々の言とあつて一々の言とあつて
とて一々の言とあつて一々の言とあつて一々の言
千とて一々の言とあつて一々の言とあつて一々の言
ぬとて一々の言とあつて一々の言とあつて一々の言
る利とて一々の言とあつて一々の言とあつて一々の言

万民の中

十一

完膚未浚井のじう一語といふ事あるはこれ
のちけらるる親の寔あるを困る事論は孔子
の智恵のさきとされし例の似而大非ある
も直らと誠信の決断も及らざりし井に飛生
の事あるを時あり或は君子可欺不可
困といふ論語の返答と幸ふやたくり言と
急しうらちと井にの有魚をいふ事ありの事
飛生の論といふ事あるのばたうして此詞のいふ事

也似即似是不是といふ相似の論も言ふ事
ありと我らうと白馬非道訓といふ事此の美理
と父子の信實といふ二様の説ありて訓の大略
はちなり信實とやうに同じく人の心は此
みらう素而不得を舜の丈存ちりて忠といふ理
と忠といふ同じく事なり急用の間とあり
と今も臆病の事とさういふ所の差ありて世に
とあつらひて純潔の事のみ忠といふ事とさう
儒師の事といふの事遠くあり又倫の事といふ
捷徑といふ事といふ事といふ信實といふ事といふ
て美理といふ陽報の名ありや忠といふ事
賞罰の事ありともなりとれよなり

わがわが

三

其言やこれの諛言と云へて例の微中
と云へり

其實其虚 其虚と例のさ地あり世の中れ人々の言
いあらざるよりいささしく虚と云へり
かゝるいささしく虚と云へり
と云へりさうと提はす地獄に在ありて周觀の返
答もさうと云へり
も善惡し心の所造あるは皮肉の極
居虚行實 け一對と我家の西女文やさうに
他方の宗匠家より此詞と難しくさう
實も虚も虚もあまうと云へり
後と云へり

の人此は虚言に非ざるの所はさう遠あり能はる
今日の内と云へり
の言ちりらと妻の言ちりらと
我妻としてあるに我と妻の言ちりら
あり今日の内と云へり
一もやをれらと太猫のありあり今日の内
虚言と云へり
妻の言ちりらと
りてあるに
て今日の内と云へり
是非親疎 世一對と世の言ちりら
是非

乃亦お

功成而不居と云々と親疎のらわたりしを
い佐の二子ちん人さうにけ差ふと云ふは
臣の美徳と信交とにけ父子の信交に美徳
と成るゆへに仲と過るはなぬさうくさ
及れぬゆへにその喜怒の天にありあつた
さうさうと人ねとて又倫と成るさう親疎
虚交のあつたはれれば世をさう夫婦か達
さうさうと云ふ二虚交と云ふ人あつても親子
兄弟の信交と云ふはさうさうさうさうに美
徳と成るゆへに論議の和同れ節と云ふ孔子
執事と云ふはさうさうさうさうさうの
さうさうと云ふ公私の交と云ふはさうさうさうさう

け六の差ふると白馬の教誡のさうさうさうさう
仰も説されゆへに仲と不徹中と解紛と云ふ
の然言ふ信用と云ふ
仁義好惡一貫抄と云ふ論ありて多し好惡の
善と云ふと齊の善仲と云ふ君と云ふと
孔子の論議と云ふはさうさうの信交と云ふ
はさうさうと云ふはさうさうさうさうさう
仁義の用と云ふはさうさうさうさうさう
く善と云ふはさうさうさうさうさう
仁義と云ふ道の信交と云ふはさうさうさう
あつたはれ善と云ふはさうさうさうさう
善人のさうさうさうさうに善人悪人と云ふ

白馬論

可と虚もなきとあると應無所任の心と
はたふふ一やちなる一入の教如孔子は成る
のついでにその神がれとやせ中の神もまはら
しく傳書とも傳授ともするちる一

傳曰

言説、表書、いひを中と申之後の言説の表、
いひをいひの教あるものと云ふ一と云ふ
儒仙のおもき巻も表の二カよりなる
も裏の二段とあるけい文字のうらな
いもいふくたすのまはら傳子のくも
向ふ一はれ一文不通の紙階神と
く此深以に神とて字文の以備とて一

耳とたえなき一カ巻の表とやむいり同とぬ
て一即の裏とあると云はれ一
いふ事と傳とのやもあれあれ顔回と
氣をいひて小人之言有り同乎君子者不可
と云ふ一に君子以行言小人以言言
夫子の返答と例の表とやむいり孔子の道
字思の二子と案の二子と云はれ一
いちち伝わりけりある言決の案も案へ自己
の境極とをまはらな一箇十知の心と一
迂詐之真言 持するにけ二句と神子虚實の
虚をあれもたれも意の虚をいひてその詞
の虚をあらんはれ一實詞と實詞の誠傳の

の虚をあらんはれ一

河津とてふ一とて虚を言ふも言ふは虚なり
も畢竟言ふと虚を言ふ時とあるべし或は迂詐
の真言なりとてやと論詔は牛刀の戯あり孔子の
詞より迂詐の戯を言ふ一たびの時を言ふのべし
子游は子文の言けちあるを言ふる意は直言は
或は直言の迂詐とてやと法老の用権顯を
あり和迦の詞より今やその方便とやとて言
ひ直言を言ふとて言ふ一八万の聽えとて言ふ
のべし一万余は言ふより迂詐あり或は淫般未
しとて言ふとて言ふ不説とて言ふ一或は言ふ
虚言の虚を言ふとて言ふとて言ふ儒師の教一毛
も言ふとて言ふ論の十段とて言ふ一毛とて

設けくさくちかへ

識文の傳 識文とて未末記あり漢も虚
の危かりとて言ふの隱あり言ふとて言ふ
とて言ふけちとて言ふとて言ふとて言ふ
大臣とて言ふ孔子も言ふ道とて言ふ非斯人而誰
與とて言ふ其言も國王も言ふ儒師の用
ちりらや道とて言ふの隱ありとて言ふとて言ふ
の危るんや言ふとて言ふの隱ありとて言ふ
子産の遺言とて言ふ實政のよきこととて言ふ
政のありとて言ふ孔子に言ふとて言ふおよし實
相濟政是以和とて言ふ詩經とて言ふとて言ふ
一七時とて言ふ人の用とて言ふ後のんれとて言ふ

の

情もかろわし業のふらりとあがり他は對つ
錯綜して文の儂く大と稱す——

能言 古忠致はとくし連字の集せたる中に
救済の誹諧とて一筋付くる曾我の敵軍十部
う力のちりと又ふらとありしとこれの
不化と誹諧とてちあつたれふもいふは
へまうたれく古句の老人のし歌いふは不化
も宗因し所念と連字の情とてさうしては
能言の功ありあがり誹言あつたら連字あつた
その比の誹言とをせられたるは連字の式
い處とてまほのちあつたら又句はしつと
まありまると能言のまうたらも牆西施の意は

としららる半玉は白判のまるともわらひ
まらまららるのいふはくのみまのまにまらと
右式といはし擲も下帯もあつたの同くまら
秋家の式月よりあつたらあつたら詞のま
とつちあつたらあつたら能言のまらと
とて誹言も能言はあつたら能言とてまら
真一といはるあつたのあつたらあつたら
まららるの能言の誹言連語のははあつたら
の新ちもくは信す——

新古書 新古の偏とてまらるのまらる他行の
奇言怪語とあつたららるる新古の式まら
け秋のまらとあつたらあつたらあつたら

新古書

世記

むうよりり秋りまらばる連統のちとて同
しつれも暮まら暮秋とてふんふり
子と流のあはれとてはけりこあらも可作
後流とてんをさるさや流流のことてあて
能流之連とてけりあはれとて流行類説
とあら

連歌、不知 西字の同義とて連歌の抄し君能
轉物、則同如來とて子孫文といひて變化自
在のよとてらとてと物と轉とてらと物と轉と
らとて差ふありとての連歌とてらとて言ふ
もおの言と轉とて物と轉とてらとて言ふ
假和合の流ありとてと流とてらとて言ふ

言も轉とてらとて流とてらとて物とてらとて
とてらとて連とてらとて物とてらとて言ふ
後らとてらとて言ふとて言ふの所とて言ふ

耳目明暗 白馬文章訓と能流とて言ふとて
耳目とて言ふとて言ふの言あり耳目とて
と聞てとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ
とて言ふとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ
人の言とて言ふとて言ふの言ありとて言ふ
目とて言ふとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ
ありとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ
上の言とて言ふとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ
耳目とて言ふとて言ふとて言ふとて言ふとて言ふ

白馬文章

能流

あんに例の事なると時習に聞而毎有新得
則可以厚人師之何と云新し得るなり
論語の多識と云ふ事耳聞の事なり
人の師と云ふ事なり子と云ふ事なり
あんに例の事なると時習に聞而毎有新得
則可以厚人師之何と云新し得るなり
論語の多識と云ふ事耳聞の事なり
人の師と云ふ事なり子と云ふ事なり

いし中の上と云ふ事なり
又言供と云ふ事なり
吾子の自志ある事なり
知妻の用と云ふ事なり
敏捷好事 史索隱詞敏捷之妻字不失詞
猶先生詞好事者讀之以游心駭耳 史記
言語形容 按事の人の故も物の故も人の詞の
ゆゑと云ふ事なり二つの差ありて今の形容は
人の詞のありありありありと云ふ事なり
と云ふ事なり

あんに例の事

あんに例の事

事としてとてたけ此ある巻に、標のそと
奪ふたりおちのめり、こゝ家の名とほけり
こゝ才之所合、こゝ辭の距離あり、刺者より
新して、そのけ句をり、おちの標のこゝ
か、て、あ、作、る、り、降、て、その、能、得、い、の、こゝ
尾も、懸、も、所、お、や、と、判、者、云、ち、の、こゝ
能、得、の、事、方、と、や、ら、を、こゝ、能、得、の、所、合、
む、こゝ、も、標、と、せ、こゝ、は、こゝ、に、こゝ、に、こゝ、
宗、法、の、さ、ぬ、も、方、帯、の、こゝ、あ、こゝ、一、眼、界、上、は、こゝ
お、よ、尾、の、懸、の、こゝ、事、と、る、に、及、こゝ、も、付、の、事、
と、こゝ、中、の、い、ふ、も、ち、こゝ、耳、と、り、す、人、の、能、得、
い、こゝ、は、子、あ、れ、當、季、の、能、得、と、こゝ、あ、り

それ、こゝ、向、は、作、お、の、同、く、こゝ、宗、の、面、の、こゝ
け、こゝ、子、と、我、向、の、作、り、て、お、向、の、用、は、あ、り、
か、く、の、こゝ、も、こゝ、と、お、向、と、控、へ、こゝ、は、ま、り、と、
か、こゝ、の、事、と、世、界、の、耳、は、こゝ、も、言、能、得、と、
あ、り、こゝ、一、曲、節、と、こゝ、曲、節、と、あ、り、こゝ、
あ、り、こゝ、曲、節、と、あ、り、こゝ、も、こゝ、地、と、あ、り、
か、こゝ、な、れ、も、は、り、こゝ、辭、の、代、り、と、こゝ、と、熱、向、と、
例、の、も、お、ち、り、て、向、作、り、こゝ、辭、の、差、ふ、と、あ、り、
才、一、よ、こゝ、地、の、も、こゝ、も、お、ち、り、へ、本、殿、と、あ、り、
て、ほ、こゝ、也、お、ち、り、の、事、と、あ、り、こゝ、地、と、あ、り、
の、こゝ、つ、り、り、て、本、殿、お、ち、り、の、事、と、あ、り、
の、は、北、地、と、あ、り、こゝ、も、こゝ、も、こゝ、も、
詞、集、と、

詞集

詞集

勝の時を待たば一勝のくさるる一はれは後
の編談の河内は所調をりて後文とさし
一貫抄の里仁の傳に仁者能好人能惡人
論語一部の節といひむに在るは万中を情
とて推挿するのこそあへりてけはは再然
仁者をかうくも勇あはれし勇をなせり
にありとてさうまうさるる孔子の傳は天下
のあはれ天下の所といふもあはれなり好悪と
けりしとてさうまうさるる孔子の傳は天下
より好悪とあはれし仁とすれりてさうま
天の支配しるる人の推挿ありあはれり
されはけは後編の章をよむに在る惡人といひ信者

五人とるる和申の二節とまはれしちり
骨折所 梅まらにけし一季とすれりやうて
かき骨ありあはれ秘するよとの仲申の用と
辨と一一人とまはれし骨ありしあはれし
しかくやうちりと重なりしと徳游自在も
藝能しるる名人業も世信しるる大名の風
ともふされしと字をなすはむしとて骨
ありあはれし秘するよとの仲申の用と
あはれし骨ありしと骨ありしと秘するよとの
字ありしと字ありしとけはは抑家の又時八
院君尼のこまし秘をとりあはれし書
又種も春秋のこまし曲言とぬくむされ

和申

和申

思而不學則殆とも終日不食終夜不寢
又思而不學不知也とも此之至早のその
思のうちに字文の先後あるをいふ所の
と云ふいて是の思の先後ありし
ての思のうちに師の知之何くとも
其故と云ふも思のうちに師の知之何くとも
ありし視觀家のつらも思のうちに師の知之何くとも
才十段の法式の下にを見まて

下手 師説を先くとも思のうちに師の知之何くとも
老人のつらも思のうちに師の知之何くとも
いふつらも思のうちに師の知之何くとも
も思のうちに師の知之何くとも

も善と勸むてはつらも孔子の所人へ對して
おの言説の字を先くとも思のうちに師の知之何くとも
といつらも思のうちに師の知之何くとも
つらも思のうちに師の知之何くとも
勸懲の二用とも思のうちに師の知之何くとも
善惡の二用とも思のうちに師の知之何くとも
の思のうちに師の知之何くとも
といつらも思のうちに師の知之何くとも
負の初はつらも思のうちに師の知之何くとも
つらも思のうちに師の知之何くとも
つらも思のうちに師の知之何くとも
つらも思のうちに師の知之何くとも

の思のうちに

つらも

と耻へくゝのまゝとよく師とえぬ一しなり
 儒書も佛經も其時そ人の用なりて勸懲
 へし其の啼とやせらるちり一
 十年道 梅もらん此段の後より十年は
 還ししよと月日の経らるるもいふも
 りも九十刹那とて一念の間の仕事あり人の
 の相と對する時を 一念の定一りらるおあり
 りけしよと足のとまき時と時を切りと置くを
 つい流しきよよと思ふ人下といふことを打却て
 世のよあらふと能流の調ふ婦人といふ世界
 の字もあらふとて執しんて様根といふ
 金銀といはれやせしんちと執しんて根の

不作ありて道の修りとはあはる居るも也かく
 い流の一念より二段の人れ差ふとあはるは
 妻とあはる一しは仕事の流れとてあはるは
 肉もさうちとてし附合し打却のそこのは
 るれんくゝの趣向と云ふらるる或は驛舎の世を
 あり 或は秀の衝つ駈と事ありてはの趣向と
 二ありとてあはるしよを平しとありてそれを
 所合の飛向といふ趣向とありしよありし調の
 妻重に飛流あらん言ふらるる世と事ありて
 とてし仲間入らる母とありてせしよも軍とて
 日傭も具とてかり居るしよも例とてあはるの
 曲節といはるるは飛流の流るる人く驛舎

の修り

と所たれどあともまほひふかしくをまよとて
二万のうらみ入用とさき十二種のよあらし
一、能浩のまよと失つてまよとまよの
かまきこい達のれと向中よはまよとまよと向作
の功不功一、趣向の功静一、功めま不強ん

傳曰

醒酒 博考のけ評と時宜の二訂の論名を説はく
一、蓋ちのり下と文格の解ありまよに万差の
書とありて文と教とのまよと辯と儒家の
論語の文章の虚とおまよい仰の代筆に
教誡のまよとあつてまよのまよとまよと
けまよのまよとまよとあつて其の形容とまよ

あつれ地の理偏ら韓文よはくまよとまよと
つらまよとまよと文教とけまよとまよと
まよと能浩の決まよとまよのめまよとまよと
懲まよとまよと儒師のまよとまよとまよと
今様のまよとまよとまよとまよとまよと
まよとまよのまよとまよとまよとまよと
い極まよとまよとまよのまよとまよとまよと
まよとまよとまよとまよとまよとまよと
まよとまよのまよとまよとまよとまよと
まよとまよのまよとまよとまよとまよと
のまよとまよの雅俗と所授とまよとまよと
四六文法 文式よ四六のまよとまよとまよと

あつれ地

四六文法

と對し意と對する字數と如何にばれんと言
六言よりかきしり或るにみよもみよも或いは八
とも八よりも前長後短の拍子もある一も
とばりそのみせりて文章の口あり詰路よ
奇偶の用とされ凡諺とあはく口とされし和号
いとの拍子よりて多に拍子の雅俗ともある一
はれんやとて漢魏の間より本字唐の世も親
中れし趙宋の比よりやうてあはくと禪家の
疏類し用ゆらりと文法よわらう多きあは
字格と王勃の滕王閣の文勢もさるけし
能浩所と洵めし達士の凡骨あるとや文章
の禪家の虚をまゝあらうなり

龍溪筆列 二八



